運用設計入門コース (ワークショップ 第3回)

運用の価値

運用設計ラーニング

2023-12-14

復習

受け取り手によって異なる「価値」具体化のタイミング

受け取り手が **自分** 提供者 かつ 受け取り手 **価値は、提供時点で具体化する。**

受け取り手が他人



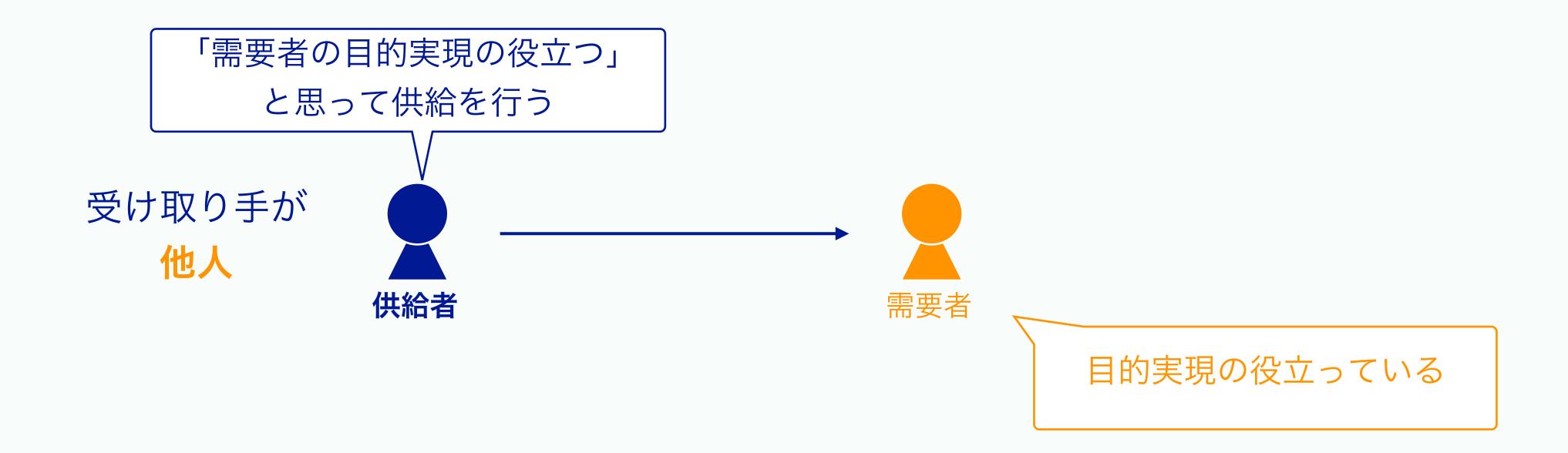
目的実現の役立っている

価値は、受け取り手が認識することで はじめて具体化する。

受け取り手が認識しなければ、その価値はいつまでも具体化しない。

ビジネスにおける「価値」を明確にする

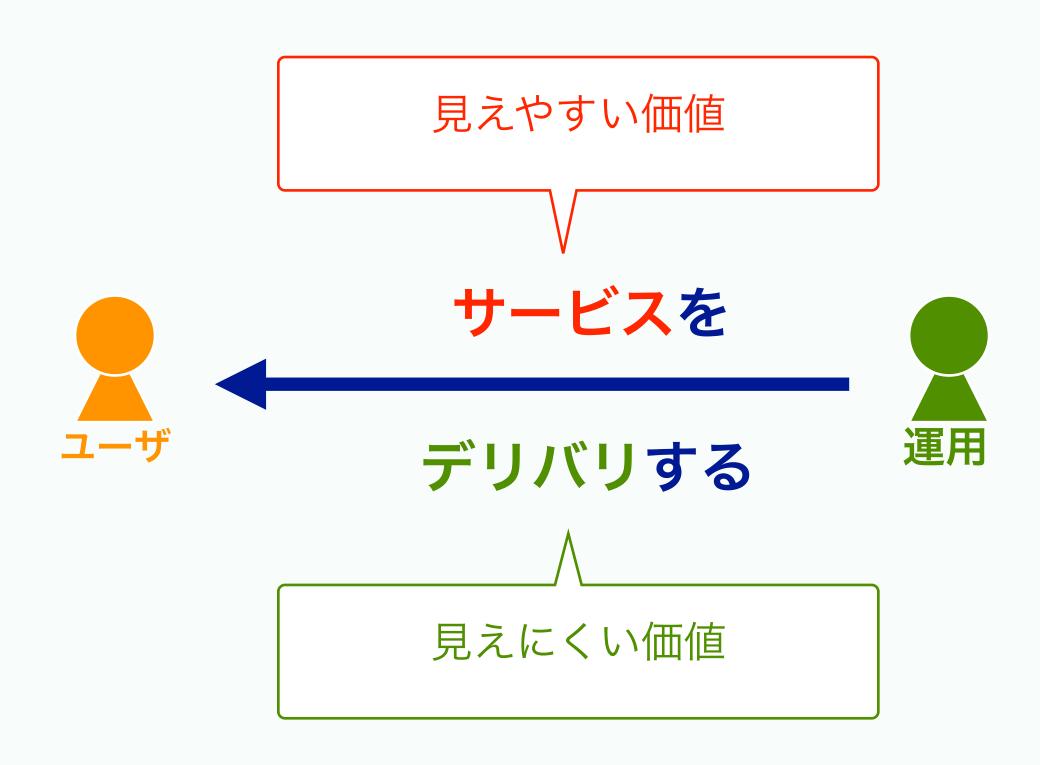
供給者は、需要者の目的実現への貢献をわかりやすく伝える必要がある。



ビジネスにおける価値は、受け取り手が認識することではじめて具体化する。

見える価値、見えにくい価値

ビジネスにおける価値は、受け取り手が認識することではじめて具体化する。



運用の「サービス」

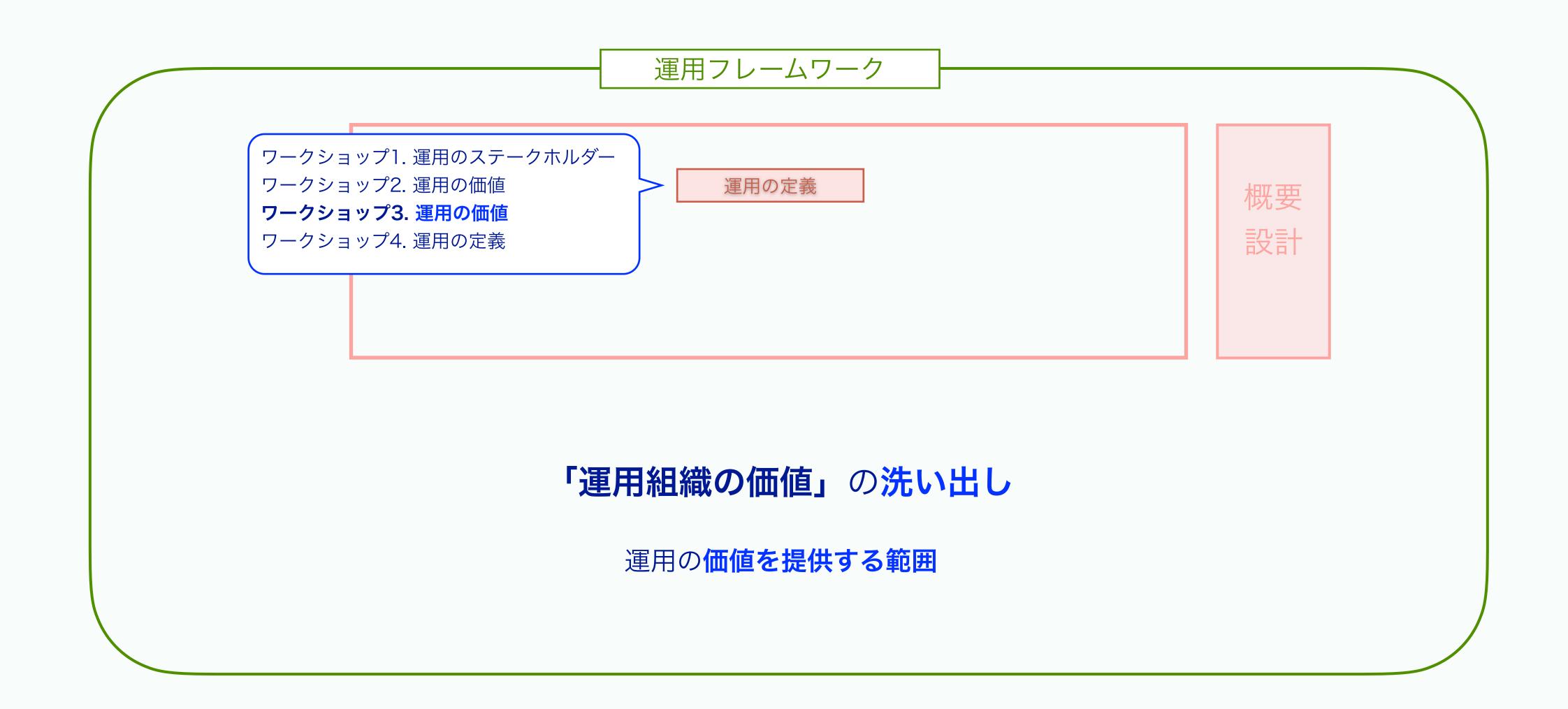
「**事業継続のための課題**」を**解決する**という**サービスを** 継続的にデリバリ**している**



今回のワークショップでは、運用にとっても最も重要な「サービス価値」にフォーカスします。

学習ガイド

ワークショップの位置付け



ワークショップは「実務に向けた準備」

運用フレームワーク

ワークショップ1. 運用のステークホルダー

ワークショップ2. 運用の範囲

ワークショップ3. 運用の価値

ワークショップ4. 運用の定義

運用の定義

概要 設計

ワークショップの受講と並行して 「運用フレームワーク」の実装に向けて**社内で活動が必要**となってきます。

- ・運用ダッシュボードの実装
- ・講義の復習
- ・ 社内での議論、フレームワーク要素の整備(公式化)

今回のワークショップのテーマ

「運用の価値」とは何か

「**運用**」は、ユーザーに対して 何(どのような価値)を提供していくべきか

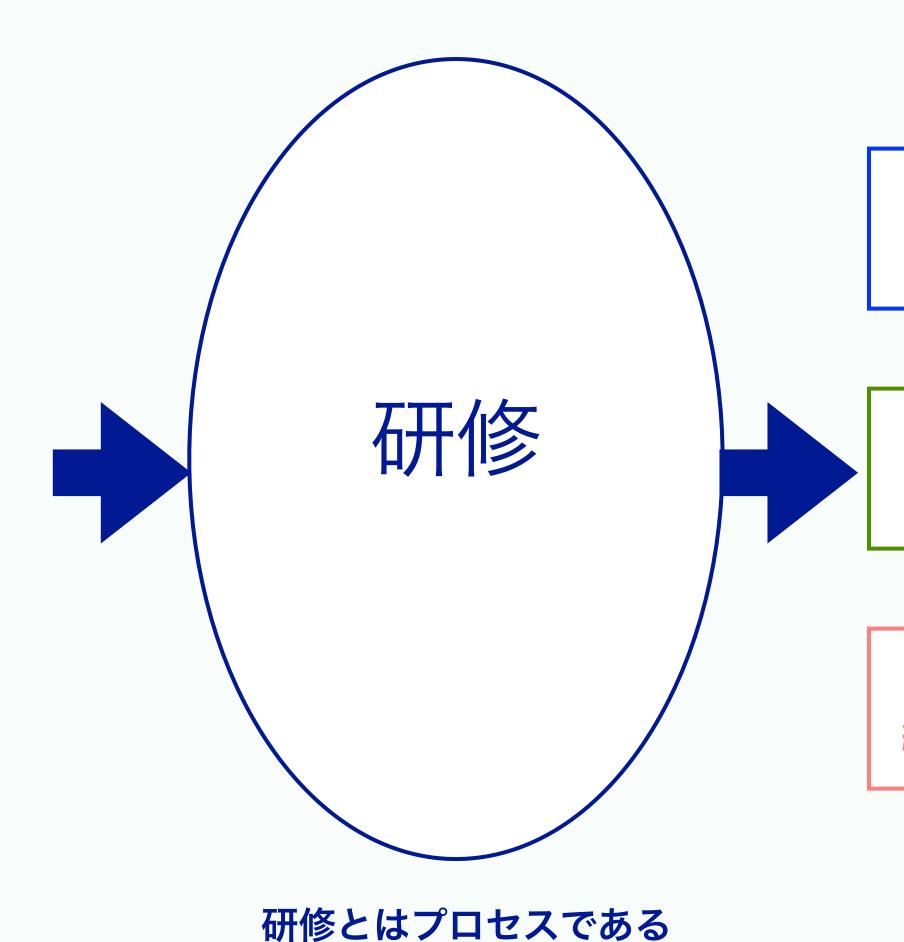
研修による変化 (受講者への期待)

Before

運用の価値について 個人的に考えたことが無かった

運用の価値について 組織的に議論したことが無かった

運用の価値について 組織的に議論したことはあった



After

自分達の**運用の価値**について **個人的に深く考察**するようになる

自分達の**運用の価値**について 組織的に活発に議論するようになる

自分達の**運用の価値**について **継続的にブラッシュアップ**するようになる

ワークの全体像

ワークの全体像

ワークの全体像

ワーク1. 価値を伝えるための項目

「運用の価値」をステークホルダーに伝えるためには、どのような項目が必要か分析します。

ワーク2. 価値を表現する

OpsLearnが考える「運用の価値」の要素について、ステークホルダーに伝わるように表現します。

オプションワーク: 独自項目について表現する

ワーク1で分析した項目のうち、ワーク2に無いものについて、**ステークホルダーに伝わるように表現**します。

ワーク1. 価値を伝えるための項目

価値を伝えるための項目

ワーク1. 価値を伝えるための項目

「運用の価値」をステークホルダーに伝えるためには、 どのような項目が必要か分析します。

- ・使用するファイル形式は自由です。(Excel / PowerPoint / メモ帳など)
- ・「運用サービス名」と「サービスの概要」は必須です。

ワーク2. 価値を表現する

価値を表現する

ワーク2. 価値を表現する

OpsLearnが考える「運用の価値」の要素について、 ステークホルダーに伝わるように表現します。

- · 「運用価値」シートをダウンロードして使用します。(URLは別途共有)
- ・太字の項目を優先的に記述してください。

オプションワーク. 独自項目について表現する

独自項目について表現する

オプションワーク: 独自項目について表現する

ワーク1で分析した項目のうち、ワーク2に無いものについて、 ステークホルダーに伝わるように表現します。

・ワーク1で分析した項目のうち、「運用の価値」として表現しやすい項目から 優先的に記述してください。

成果物

成果物

運用価値シート

運用サービスの提供先と範囲に対する価値の明確化

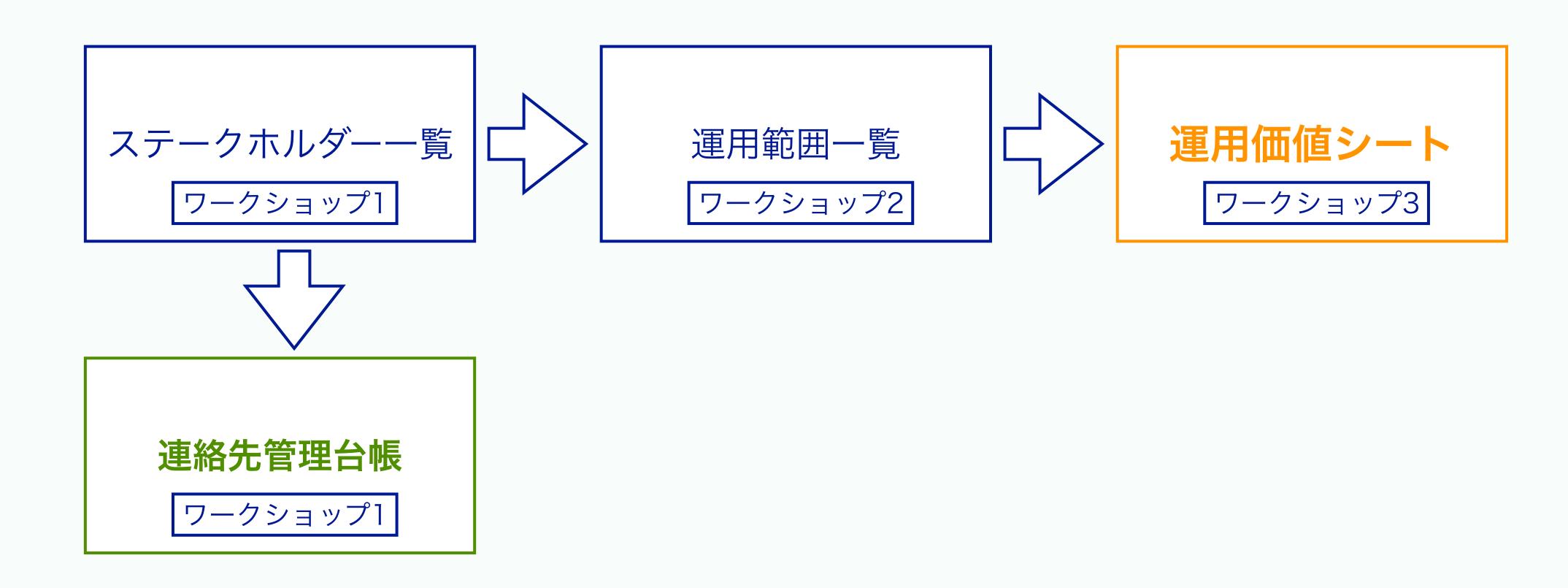
運用価値シート

(今回は、1つのサービスのみ)

これまでの成果物の位置付け

運用設計の流れ

運用サービスの提供先と範囲に対する価値の明確化



今後のアクション

今後のアクション

自分達の「運用の価値」を明確化するために 「運用価値シート」を増やしていきましょう。



参考: 「運用の価値」と「サービスカタログ」

運用フレームワーク

概要設計

最終ToBe

(概要)

運用のあるべき姿

中間ToBe

現時点のあるべき姿 (組織レベル)

運用の定義

期待分析・成果設計

サービスカタログ

中間ToBe (詳細)

現時点のあるべき姿 (業務レベル)

業務プロセス設計

作業カタログ設計

運用基盤設計・整備

運用の定義

- 4. 運用の定義
- 3. 運用の価値
- 2. 運用の範囲

ステークホルダー分析

1. 運用のステークホルダー

「守り」の部分

運用の羅針盤

Asls

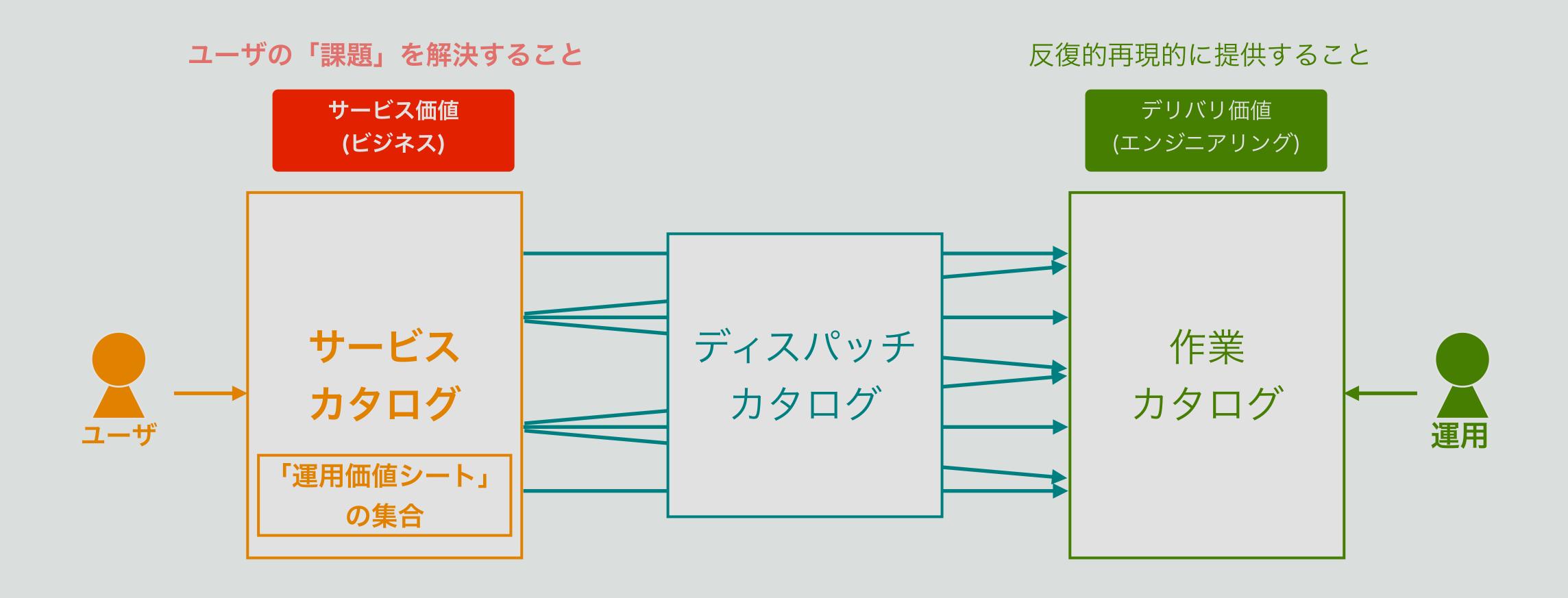
「攻め」の部分

現状の把握

改善スキーム設計

運用作業の測定

参考: 「運用の価値」と「サービスカタログ」



詳細は、来春リリース予定の「運用設計基本コース」で解説予定です。

講義のふりかえり

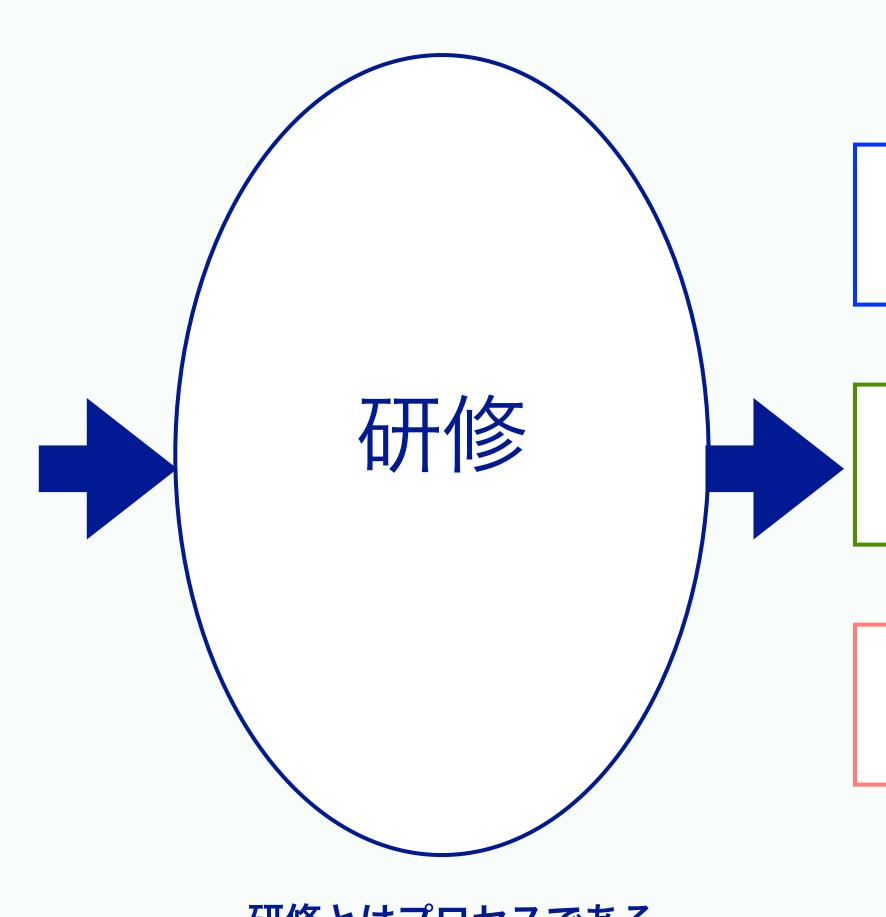
研修による変化 (受講者への期待)

Before

運用の価値について 個人的に考えたことが無かった

運用の価値について 組織的に議論したことが無かった

運用の価値について 組織的に議論したことはあった



After

自分達の**運用の価値**について **個人的に深く考察**するようになる

自分達の**運用の価値**について 組織的に活発に議論するようになる

自分達の**運用の価値**について **継続的にブラッシュアップ**するようになる

今回のワークショップのテーマ

「運用の価値」とは何か

「**運用**」は、ユーザーに対して 何(どのような価値)を提供していくべきか

https://www.opslearn.jp/